

## 市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査表

資料2 中央区  
H26.10.16

### 【中央区まちづくり推進課】検証対象事業名及び概要、目的など

細事業名	概要
中央区まちづくり推進経費 「中央区、校区カルタ」の作成	中央区まちづくりビジョンに基づき、区のめざす姿の実現に向けて、区の特徴を生かしたまちづくりを推進するための事業の一つで、将来的な中央区カルタ制作に向け、自分の校区の魅力を発掘、人に伝えるという作業を通して、住むまちへの理解を深め、誇りをはぐくむため、地域の魅力や自慢をうたいこんだ「校区カルタ」づくりを地域に提案、支援するもの。校区単位で、ワークショップ等を活用しながら、読み札・絵札等を選定する。なお、「校区カルタ」を印刷・配布し、地域で活用してもらうとともに、全19校区の中から「中央区カルタ」を制作して、「中央区カルタ大会」の開催やジャンボカルタの貸し出し等の事業展開を予定している。

### 1 検証対象事業の参画・協働の取組実績(検証のチェックシート①)

参画・協働の取組・説明	参画	協働
	<p>これまでの各「校区カルタ」づくりの過程での参画・協働の取組実績</p> <p>本荘校区 高齢者と本荘小学校の2年生の幅広い世代が参加したワークショップを1回開催(52名参加)し、読み札案を作成。</p> <p>出水校区 ・読み札案の素材の掘り起こしのワークショップを1回開催(44名参加) ・読み札案の素材掘り起こしのため、歴史勉強会を1回開催(17名参加) ・読み札案(素材・頭文字は重複)作成のワークショップを1回開催(9名参加) ・重複した読み札を選別する作業部会を2回開催(8名、9名参加) ・読み札の解説文作成の作業部会を3回開催(13名、9名、10名参加)</p>	<p>一新校区 ・読み札案の素材の掘り起こしのためのワークショップを1回開催(11名参加) ・読み札案の素材を町内に配布し、読み札案を募集(応募総数345件)し、重複した読み札を選別するため、作業部会による投票を実施</p> <p>砂取校区 砂取小6年生作成の読み札案を一部加筆修正するための作業部会を2回開催</p>

### 2 検証対象事業の情報共有の取組実績(検証のチェックシート②)

情報発信の時期	a平成25年 8月29日(木)(別紙資料①) b平成25年10月 4日(金)(別紙資料②) c平成25年12月 6日(金)(別紙資料③) d平成25年12月 8日(日) e平成26年 7月 4日(金)(別紙資料④) f平成26年 9月 9日(火)(別紙資料⑤)
活用した情報媒体	a第4回中央区校区連絡会議にて、各校区の代表者へ「校区カルタ」募集のチラシ配付(別紙資料①) b中央区公式フェイスブック及びシティFM『まると熊本市』にて、「中央区カルタ」、「校区カルタ」の事業概要紹介(別紙資料②) c第5回中央区校区連絡会議にて、各校区の代表者へ「校区カルタ」制作の事例紹介(別紙資料③) dTKU熊本市広報番組『くまもとわくわく探偵団』にて、「中央区カルタ」、「校区カルタ」の事業概要紹介 eシティFM『校区のチカラ』にて、出水校区カルタの読み札案の紹介(別紙資料④) f第7回中央区校区連絡会議にて、各校区の代表者へ「校区カルタ」の進捗状況の報告(別紙資料⑤)
対象者の興味関心を引くための工夫	a人の目を引き、事業概要がイメージしやすいチラシの作成(別紙資料①) bラジオ番組の生放送で、フェイスブックの記事を紹介(別紙資料②) cワークショップの様子等を写真や④のデモ映像を使用して、「校区カルタ」制作の事例紹介(別紙資料③) d「校区カルタ」づくりの楽しさが伝わるよう、子どもから高齢者までワークショップに参加した様子を放送 e44文字の読み札案の中から、出水校区カルタづくりに関わった区役所職員のお薦めの読み札案の一部を紹介(別紙資料④) fこれまでの各校区の進捗状況を紹介するとともに、出水校区カルタの一部の完成イメージを提示(別紙資料⑤)
事業の目的や内容について、対象者の理解を深めるための工夫や取り組み	出水校区では、子どもたちが安全で安心して暮らせるよう見守り体制の充実を図り、心身ともに健やかに成長していくための支援を行うことを目的として、小学生等の若いお母さんたちや主任児童委員を中心に構成された「出水校区子どもネットワーク」を昨年度立ち上げ、世代間での交流ができる楽しいイベントとして、現在、校区担当保健師と連携し、「校区カルタ」づくりに取り組んだ。これまで、読み札案の素材掘り起こしのワークショップを1回、歴史勉強会を1回、読み札案作成のワークショップを1回、重複した読み札案を選別する作業部会を2回、解説文作成の作業部会を3回、合計8回、延べ119名が参加し、現在絵札案の元となる写真を集めているところ。
事業の目的や必要性が、対象者に浸透していると思われるか	出水校区は転勤族が多く、いずれ転校するかもしれない子どもたちの小学校時代の思い出づくりに「校区カルタ」を活用したいとの思いがあり、「校区カルタ」づくりに参加したお母さんからは、「地域の歴史を学び、校区のことを知るきっかけとなった。」、「自分たちの出水校区のことがこれまで以上に好きになった。」等の意見が聞かれた。また、これまであまりまちづくり活動・地域活動に関わりの少なかったお母さんたちにとって、「校区カルタ」づくりの作業自体が、今後のまちづくり活動・地域活動への参加のきっかけとなったのではないかと考える。

### 3 細事業における、市民参画・協働による効果について(検証のチェックシート③)

「校区カルタ」づくりに取り組んでいる校区がまだ少ないが、出水校区のように、これまであまりまちづくり活動・地域活動に関わりの少なかった区民も、自分の校区の魅力を発掘し、人に伝えるという「校区カルタ」づくりの作業を通して、住むまちへの理解を深め、誇りをはぐくむきっかけとなり、今後、まちづくり活動・地域活動により積極的に関わっていく可能性があるものと考えられる。
---